



東青地域県民局地域農林水産部普及指導室

〒030-0801 青森市新町二丁目4-30 (Tel 017-734-9965、fax 734-8305)  
電子メール hi-nosui@pref.aomori.lg.jp



東京農業大学教授 後藤逸男氏



パネルディスカッション



熱心に聴く出席者

## 日本一健康な土づくりフォーラム開催

昨年11月30日に、青森市にある県農協会館で「日本一健康な土づくりフォーラム」が開催され、生産者など160名の参加がありました。

県では、本年度から、「日本一健康な土づくり運動」を推進していますが、普及指導室では、「環境にやさしい農業技術組立実証ほ」の現地講習会、「稲わら焼却ゼロ宣言」、「稲わらすき込み実演会」に引き続き、今回のフォーラムは、健康な土づくりにより、高品質でおいしい農産物の生産を推進するため、全農青森県本部、県施肥合理化推進協議会と共催したものです。

「今なら間に合う土づくり！あなたの土づくりは大丈夫か？」と題した基調講演では、

東京農業大学教授の後藤逸男氏が、土壌診断結果に基づいた適正な施肥の重要性を力説され、参加者の皆さんは土づくりに対する知識・技術を再確認していました。

また、「私の自慢の農産物は土づくりから生まれる！」をテーマにしたパネルディスカッションでは、田舎館村いちご生産者の工藤豊氏、青森市トマト生産者の清藤恭史氏、J A 田子町農産課長の森本昭彦氏による、一流の農産物を生産されている方々の貴重な体験談は、大いに参考になりました。

このフォーラムを契機に、生産者の皆さんが、健康な土づくりにより高品質でおいしい農産物づくりに取り組まれることを期待しています。



受賞式会場の屋上にて



快適な牛舎



乾燥発酵中の堆肥



飼料の混合作業

## 祝！「緑白綬有功章」受章 木立 純一さん（平内町）

大規模酪農経営農家 木立純一さんは、平成19年度第91回農事功績者表彰「緑白綬有功章」受章の栄誉に輝きました。

これは、社団法人大日本農会（会長 武政邦夫）が、農業改良の実行に顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献している農業者を総裁桂宮宜仁親王殿下の御裁可を受けて決定するものです。

表彰式は、桂宮宜仁親王殿下や若林農林水産大臣、受章者70名を含め200余名が出席して、平成19年11月20日東京都港区の石垣記念ホールで行われました。

木立さんは、

- 1 乳牛110頭の経営規模で、敷料は地場産の初がらやのこ屑を多用して牛床を乾燥させ、牛の快適性を向上。

- 2 自給粗飼料とパイナップルの皮やりんごジュース粕などの加工食品残渣を混合飼料として調製・給与し、栄養バランスを向上。などによって、1頭当たり年間生乳平均出荷量は、1万1千kgを達成
- 3 家畜排せつ物の活用に意欲的で、堆肥発酵処理施設や乾燥舎等の導入により良質堆肥の生産体制を確立
- 4 小・中学生の酪農体験学習や消費者の施設見学の受入れ
- 5 特殊肥料生産・販売業者の資格を取得し、生産した良質堆肥は、平内町のたばこ、ピーマン農家などに供給していることが高く評価されました。今後も地域のリーダーとして、活躍が期待されます。

# 北秋田市における 集落営農の取組

～11月に行われた、集落営農組織育成に係る先進地研修の内容を紹介します～

## 1 農事組合法人「田中ファーム」

### (1) 農事組合法人の設立

(農)田中ファームは、平成7年に設立した転作組合「田中生産組合」を母体としています。平成17年7月から法人化に向けた検討を開始。普及センターが主体となって、週2回ペースで延べ70回を超える検討会を開催した結果、僅か6ヶ月で農事組合法人を立ち上げました。

### (2) 法人の運営

法人には、一部の大規模稲作農家を除く、43戸の農家が参加しました。構成員はほとんど兼業農家であるため、オペレーターは他産業の退職者が主体となっています。

水稲用コンバイン及び大豆用機械については、法人が転作組合からリース。その他機械については個人所有の機械を利用しています。毎週木曜日に役員会を開催し、作業日程の調整等を行っています。

法人の利益は、基本的に地代(18,000円/10a)とほ場管理料(20,000円/10a)を構成員へ配分しています。また、構成員の出役に応じて、オペレータ賃金(時給1,000円)と作業賃金(時給700円)を支払っています。

### (3) 今後の取組

(農)田中ファームでは、平成18年に秋田県の補助金を受け、ミニライスセンターを建設しました。しかし、兼業地帯であり、地域の農地を守ることに主眼を置いていることから、高収益作物や加工部門の導入に

ついては特に考えていないとのことでした。

## 2 あきた北央農業協同組合

### (1) 農協の支援体制

あきた北央農業協同組合は旧合川町及び旧森吉町、旧阿仁町(現北秋田市)、上小阿仁村を管内としています。品目横断的経営安定対策に対応し、農協内に集落営農推進課を新設。できるだけ多くの農家が同対策の支援を受けることを目標に、集落営農組織の育成に取り組みました。

### (2) 集落営農組織の設立と組織運営

集落営農推進課が担当集落を定めて、短期・集中的な支援を行った結果、35の集落営農組織が設立されました。品目横断的経営安定対策のカバー率は水稲作付面積の76%、水稲作付農家の67%を占め、秋田県のトップとなっています。

設立された集落営農組織は、税金面等を考慮し、全て集落ぐるみ型の任意組織としています。しかし、旧阿仁町では、中山間地域であることから、旧町村単位の集落営農組織(構成員248戸、経営規模292ha)を設立しました。

経理は全て農協が担当しています。大豆やそば等の転作部門はプール計算としていますが、水稲部門は構成員個々の収量・品質を反映させた、機械作業配分と栽培管理配分を行っています。



〈田中ファーム ミニライスセンター〉

# ●昔ながらの味●食べに来て●

～外ヶ浜町 郷土料理の店「再会」～

# 再会



野山の草花を生けて、お客様をお迎え



庭を眺めながら食事できます

今回ご紹介するのは、外ヶ浜町で農村レストランをやりたい！という長年の夢を実現された<sup>えびす</sup>戎さんの、郷土料理の店「再会」です。玄関奥の庭に面したお座敷には、郷土料理の美味しそうな香りと暖かい雰囲気、戎さんの心地よい声が広がり、あわただしい時間を忘れさせてくれます。

10月5日の開店からまだ3ヶ月弱ですが、夢を実現できた喜びに浸る間もなく予約が入ります。

戎さんは、蟹田川で捕れる天然の「しらうお」や「ちか」を材料にし、花見期間限定で郷土料理を提供する「かにた川」食文化研究会の代表です。調理や接客には自信はありましたが、自分1人で切り盛りするのは勝手が違うようで、「毎日が試行錯誤の連続です。徐々に慣れていきながら、お客様には、ゆっくりとした気持ちで、四季折々の味を味わっていただきたい。」と話しています。



経営者の戎さん

○ 完全予約制(金・土・日・月曜日) 11時～15時

○ 電話:0174(22)2154、FAX:0174(22)3154

## 第13回元気なかつちやの 味自慢・<sup>て</sup>自慢

### あおもい東青の味が大集合！

- ・平成20年1月18日(金)～19日(土) 10時～15時
- ・青森県観光物産館アスパム 1階イベントホール

●かつちやの味店 【10時～15時】 自慢の農水産物や加工品が店頭でズラリ！

●かつちやの自慢料理店 【11時30分～13時30分】

～温かい、自慢料理を味わって頂きます～

1月18日(金)	1月19日(土)
黒豆おこわ じゃがいもすいとん	アピオス入りおこわ 夏井田の二八そば

★お召し上がりのお客様には『手作りのお漬物』と『よもぎ茶』をサービス！

### ●東青の味プレゼント！

★10時～先着100名様プレゼント！

★11時～決め手君「ジャンケン杯プレゼント！」

お買上げのお客様に、決め手君とジャンケンして勝利したら、もれなくプレゼントをさし上げます！

